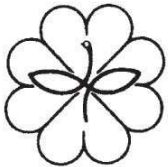


みんじょん堺

第 68 号

発行 令和4年11月
発行 堺市民生委員
責任者 児童委員連合会
住所 堺市堺区南瓦町2番1号
電話 072-232-5420
発行 堺市民生委員
責任者 児童委員連合会
会長 中辻さつ子



支えあう 住みよい社会 地域から

特集：堺市民生委員児童委員長研修報告



《B寿司スタジアム堺(原池公園野球場)》
室内練習場を備えた堺市初の本格的な野球場

150年のつながり

コロナ禍、地域の行事やイベントは中止や延期となり、人と人とのつながりが希薄になっていると感じています。このような状況下、校区で取り組んだエピソードを紹介します。

今年、校区の小学校が創立150周年を迎えます。この節目に、学校・児童・保護者・地域が協働し、記念事業の準備を進めるため「150周年記念事業実行委員会」が令和3年3月に組織されました。

当初、記念事業として記念式典と記念誌の編纂を企画していましたが、もっとみんなの記憶に残り、受け継がれるものとして、「記念ソング」も制作することになりました。

制作には、実行委員として参画するシンガーソングライターが中心となり、作詞・作曲、CD製作をリード、制作は順調に進みました。

児童や先生、地域の方たちの歌を録音、また地域の人たちの演奏も録音、それらをミックス&マスタリングし、曲が完成しました。

児童たちが“150年のつながり”をテーマに考えたキーワードをもとに作詞、これは児童たちの思い出に残る曲になると思います。

この記念ソングが地域の行事やイベントで歌いつがれ、誰もが口ずさみ、地域の人と人とのつながりが深まることを願っています。

連合会副会長 星 忠宏



会長のひとりでと シリーズ ⑧

コロナに翻弄された3年間

堺市民生委員児童委員連合会 会長 中辻 さつ子

令和元年12月1日に委嘱を受け、さあこれからという時に新型コロナウイルス感染症という思いもよらない時代となってきました。

民生委員児童委員の活動は、特に地域住民の方と密な活動をしています。ソーシャルディスタンス、距離をとった会話、マスク顔の表情がわからない生活、なんと淋しいつらい時代かと思いました。今までの時代のなんと幸せだったことか。

このコロナ禍も3年になろうとしています。ワクチン接種も進み、4回受けた方も数多くおられることと思います。

地域活動も自粛していましたが、令和4年度に入り、少しずつですが元に戻りつつあります。各校区においても、基本的感染対策をとりながら徐々に再開できる状態になりました。

今年は行動制限のない夏休み。デルタからオミ

クロンさらにBA.5と変異するコロナウイルスがまた爆発的に増え第7波と報道されています。

このコロナ禍の中でも、私たちは地域住民の方が孤立しないようできるだけ声をかけ、寄り添ってきました。

未だ終わりが見えませんが、これから先も、基本的感染対策を取りながら活動していきたいと思います。何よりも自分自身を大切にしてい。

いつの日か、この世界中を震撼させたコロナという感染症が歴史として伝えられる日が来るでしょう。私たちの心は地域福祉という一本の軸がゆらがないことを祈りつつ……。

このコロナ禍の中、民生委員児童委員として地域住民の皆さんに寄り添い活動していただいたことに感謝いたします。



いつまでも元気に暮らせる堺をめざして

堺市健康福祉局 長寿社会部 長寿支援課 小松屋 美奈

民生委員児童委員の皆さまには、日頃から本市の高齢者福祉事業にご理解、ご協力いただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

私は令和3年度に長寿支援課在宅支援係に配属されました。現在は、介護予防や高齢者の活躍支援、見守り支援などの業務を担当し、どのようにすれば高齢者の方が住み慣れた地域でできる限り自立した



生活を送れるかについて日々考えています。入庁後初めての配属先も区役所の地域福祉課介護保険係で、高齢者の方との関わりが深い業務だったこともあり、「高

齢者支援」は、私にとって、最も身近なテーマとなっています。

超高齢社会を迎えた今日において、要介護状態にならないためには、個人で取り組む介護予防や健康維持・増進だけでなく、地域の担い手として活躍するなどの生きがいのある生活ができるような取組を進めていくことが重要であると言われています。

これからも、高齢者の皆さまにいつまでも元気に安心して堺市で暮らしていただけるよう、市職員として常にアンテナを張り、住民ニーズや社会情勢を的確に捉え、より魅力的で効果的な介護予防事業や、仕掛けづくりに取り組んでいきたいと思っております。

堺市民生委員児童委員大会

総務委員会報告



第27回堺市民生委員児童委員大会が、7月5日3年振りに、開催されました。

新型コロナウイルス感染防止のため、2年間中止になっていましたが、堺の町に誕生したフェニーチェ堺で、集い形式で多くの皆さんと盛大に行うことができました。

総務委員会として、初めての場所での受付をよりよくスムーズに、密にならないように2階のロビーで行

いました。各区より2名の委員さんの協力で、滞りなくできました。

1部の式典では、今年永年勤続被表彰者218名の方が表彰されました。

2部の講演では、認定NPO法人全国子ども食堂支援センター理事長湯浅誠氏(写真下)の「地域の中での居場所、子ども食堂の取り組みから」としてのお話をお聞きました。

先生の話は、他府県の取り組みや、堺市の子ども食堂の実践など、私たち民生委員児童委員活動に役立つことが多く、明るくユーモラスな内容で、約90分間が短く感じられました。

コロナ禍のもと、民生委員児童委員大会が開催できるか心配でしたが、新しく生まれ変わった市民会館で多くの皆さまとお会いできたことが本当によかったと思いました。

(委員長 阪口 進)



今後の活動の大切な指標

介護相談員連絡会報告

コロナ禍において介護施設への訪問という事業の性質上、令和2年度は5施設20回という例年の1割程の訪問にとどまり、令和3年度は全く活動できませんでした。

令和4年度は介護施設から多くの希望もいただき、7月～11月、入居者と直接話すのではなく、施設内テレビ面談や施設と社協間のテレビ面談という形で



の活動を始めました。しかし、開始早々に大阪モデル(赤信号)が点灯し、状況をみながらの活動になっています。

月1回の連絡会では、活動ができた相談員から報告を受け、リモートでの活動がより有意義なものになるように意見を交わしています。この学びが、今後の活動の大切な指標となっていくことでしょう。

令和2年度より、「介護相談員」は名称が「介護サービス相談員」に変更されました。

(担当理事 森嶋 直子)



専門委員会だより

主任児童委員研修

主任児童委員会報告

新型コロナウイルス感染症のため、年2回開催していた「主任児童委員研修」が令和2年度・3年度は中止となりました。

令和4年度は、コロナ禍であっても工夫によって研修できる方法について、各区研修担当委員が会議を重ね、ハイブリット形式（対面・ライブ及び録画配信）で、9月2日に主任児童委員研修を開催しました。

内容は「主任児童委員活動の再点検～子どもの未来に向けて堺市施策を知る～」と題して、堺市子ども青少年局（子ども企画課・子ども家庭課・いじめ不登校対策支援室）から子ども・子育て関係施策の説明と、堺市社協から子ども食堂の実践状況について、講演していただきました。

令和5年4月に「こども家庭庁」が設置されることによる子育て施策の変化の可能性を見据えて、主任児童委員の役割を含め、子育て支援の場において関連機関とともに活動していくことの重要性を確認することができました。

今回の研修形式によって、ひとりでも多く参加ができるということの一步ができたのではないかと感じました。

（研修担当委員長 大西 京子）



小学生との交流を通じて思うこと

児童福祉委員会報告



校区の小学4年生が総合的な学習目標で“だれもが住みやすい街づくりを考え、実行する”を掲げて学習されており、テーマのひとつに“ふれあい喫茶”や“わくわくクラブ”（いきいきサロン）があり、144名の子どもたちが西部わくわくクラブに見学に来ることになりました。

プログラムなどを先生方と一緒に考え、『世界に一つだけの花』のコッカー体操（西部わくわくクラブオリジナルバージョン）・長生きサンバ・わくわくクラブの目的の説明、と決めて当日を迎えました。

子どもたちは休み時間も惜しんで、体操や長生きサンバ（YouTube）を練習して来てくれ、前に出て一緒に踊ってくれました。たくさんの質問も飛び交い、共に楽しいひと時を過ごし、高齢者は子どもたちからたくさんの元気をもらいました。今後はわくわくクラブの内容や会館の飾り付けを考え、提案してくれたり、子どもたちが考える“ふれあい喫茶”“わくわくクラブ”の再現をして私たちが招待してくれるよう楽しんでしています。

核家族化、地域のつながりの希薄化が問題になっている中、このような活動、出会いが子どもたちと高齢者、誰もが一緒になって地域のつながりを生み出す一歩になればと思います。（委員長 西野 則子）

障がい者研修を受けて

障害者福祉委員会報告

コロナ禍ということで、一度の委員会も開けないまま来ました。

今年3月の動画研修で「障がいのある方の人権について」と題した講義を受講しました。これまでの国内法を点検して、障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法、精神保健福祉法、障害者雇用促進法が改正され、国際人権法に基づく障害者権利条約に批准したそうです。障がいのある方と向き合うとき、法的な側面も知っておく必要があるのかと、改めて障害者福祉について、自身の勉強不足を痛感しました。

そして、知ったうえで親身な寄り添いと、必要な支援につないでいく、この委員会を通して少しでも理解を深めていけたらと思っています。

堺市版活動方策の障害者福祉委員会に、①当事者理解を図る②民生委員を知ってもらう③当事者の方と民生委員でできることをともに考えていく、との指針に沿って、障がいのある当事者の方、障がい福祉関係機関・各団体の協力を得て、委員会を進めていければと考えています。

(委員長 平川 知和)

民生・児童委員の本分

高齢者福祉委員会報告

令和元年12月に民生委員児童委員として委嘱を受け、高齢者福祉委員会として3年間活動することになっていましたが、令和2年1月頃から始まったコロナ禍によって私たち委員全員が集まって会議すらできなかったのが、委員の顔も分からずに3年間が過ぎることを残念に思います。

本委員会としては、ますます高齢化が進むなかで高齢者が健康で安心して暮らせるように見守り、要介護者や要支援者、認知症を患っている人々、あるいは権利擁護のために必要な支援、日

常の見守り活動などを委員皆様と研修や話し合いをしながら高齢者にやさしい地域づくりに取り組んでいきたいと思いつつ3年間の任期を終えようとしています。

常に住民の立場に立って相談に応じ、行政への支援のつなぎ役として日々、身近な相談相手になるべく周囲から期待されている中で、民生委員児童委員の本分に立ち返り活動を一步でも進めていただければ幸いです。(委員長 伯井 正)

最後の砦が民生・児童委員

生活福祉委員会報告

コロナ禍で多様化する社会福祉事業は、高齢化と不況による生活の不安定、介護サービスとともに介護保険料の負担能力など、高齢者には大変厳しい背景となっています。

心配ごとのない地域などありません。弱い立場の人たちとともに考え、寄り添う最後の砦が民生・児童委員といっても過言ではないでしょう。その人たちのために行政に繋いでいく使命が私たちにあります。

当委員会もコロナ禍で、委員会、研修会も行えず大変残念な3年間でした。このような状態がまだ続きますが、委員会、委員の皆さまの更なるご活躍をお祈り申し上げます。(委員長 伊吹 肇)



特集

堺市民生委員児童委員長研修報告

令和4年10月4日、フェニーチェ堺において3年ぶりに堺市民生委員児童委員長研修を開催しました。内容は研修・広報委員会で検討し、【第1部】研修会、【第2部】昼食交流会の2部構成で行いました。当日は85名の参加者があり、コロナ禍において感染症対策をとりながら従来とは異なる方法での開催でしたが、委員長研修を実現できたことを大変うれしく思います。

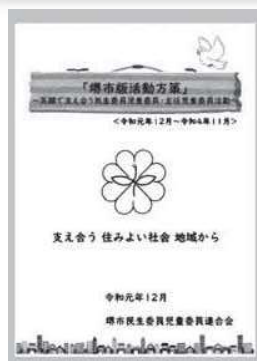
研修は、「3年間のふりかえりと次期『活動方策』にむけて」をテーマに、グループワーク形式で行いました。民児連事務局から現在の『堺市版活動方策』の説明があり、今期3年間のふりかえりを行いました。次に、4人グループ（合計22グループ）でフリップボードを使って、4つのお題ごとに意見

交換を行いました。

それぞれのお題について、約15分間で「現在の取り組み状況」、「地域での生活課題と支援」について共有し、民生委員児童委員としての思いや考えなど、多種多様な意見が出されました。研修会でのご意見やフリップボードに書かれたキーワードは、令和4年12月からの次期3年間の『堺市版活動方策』に反映され、活動の基盤となっていきます。

今号の特集は、委員長研修の実施報告として、当日フリップボードに書かれたキーワードの中から、次期『活動方策』に反映していきたい意見を抜粋してご紹介します。

（研修・広報委員会 委員長 秋元 さつき）



「堺市版活動方策」の重点目標
～笑顔で支えあう民生委員児童委員
・主任児童委員活動～

1. まちの笑顔が増えるために
2. 多くの市民に知ってもらう
3. 連携先を増やす
4. 委員といえども“一住民”



開会挨拶 中社会長

堺市民生委員児童委員長研修報告

特集

お題①『高齢者・障害者等への支援について(課題・取り組み)』

◆現在の取り組み・工夫(いきいきサロン、見守り訪問など)

- ・独居の高齢者が多く、見守り訪問を実施。しかし、コロナウイルスにより訪問が難しい状況が続き、今は徐々に始めている状態。
- ・少しの時間でも対面すれば喜ばれる。
- ・集いの場所へ積極的に勧誘。
- ・常に地域への見守り、訪問が大切である。声をかけながら地域住民の方と信頼関係を築くこと。
- ・10年以上前から高齢者の見守り活動の「資料作り」をすすめる訪問活動を行っている。
- ・コロナ禍において訪問は避け電話のみ。特に気になる方へは訪問している。
- ・お元気ですか訪問などで玄関まで出てきてもらうのが気を遣う。足腰の不自由な方が多い。
- ・高齢者宅への見守り訪問。会って顔を見て話をよく聞くようにしている。
- ・認知機能が不安定な独居高齢者や障害のある方がもう少しお話して下さるように、こちらから心開いていく、やさしく、何度も対応する。
- ・ひとりになっても住み続けた家で生活したい。地域の方々の協力、行政の協力を得て見守る。
- ・支援が必要な高齢者、障害者のキャッチ。見守り。活動はすべてさりげなく行う。

◆高齢者や障害者などの生活課題(民生委員としての関わり方・連携など)

- ・自治会を辞めてしまう方が増えてきて、ひとり暮らしの高齢者の把握が難しくなっている。
- ・特に認知症対策を重点的に行っている。徘徊の高齢者対策。
- ・顔見知りの人については「最近、何かお困りごとはないですか?」と声かけをし、その対策に善処している。マンション住まいの委員さんたちは、なかなかそれができないとの現状。
- ・いきいきサロンの参加者、ボランティアが増すように、継続した訪問、電話、ハガキ(返信付き)。
- ・ケアマネやヘルパーを代えるように頼んでほしいとか、時間外の助けを求められるケースがある。日常生活支援を直接、継続的に担うことは民生委員本来の役割ではないことを意識したい。
- ・経験として、高齢者への支援には限界がある。特に男性委員の女性への接し方。
- ・認知症の方のひとり暮らしでは、離れて暮らすご家族の理解が必要。
- ・緊急通報システムや認知症の方の見守り登録申請を自治会などの協力も得ながら促進したい。
- ・障害のある方から診察の付き添いの依頼。どこまでやっていいのか。関わり方が難しい。
- ・障害者支援は、なかなか対象者があがってこないのと、民生委員との接点が少なく、できているのかどうか不明な現状。障害者は、精神的な障害、若い方が多くなり、行政へ直接が多い。
- ・8050問題、支えている80代に問題が生じて、障害等50代の課題が明らかになってくる事例が増えている。
- ・自宅に閉じこもりがちの方への支援の問題。
- ・高齢者、障害者の方ともに、「災害時要支援者」の名簿に載っている方は把握できているが、その方々以外はわからないので、支援(見守り)ができていないと思う(「はざま」の環境の方)。
- ・独居高齢者の増加。ケアマネージャーとの連携強化。
- ・地域包括支援センターと連携を取れることが、民生委員としてありがたいと思っている。
- ・訪問等を通じて家庭状況をできるだけ把握し、相談ごとに丁寧に対応し各関係機関へつなぐ。
- ・委員全員で問題を共有し、社協・地域包括と協働する。
- ・行事を通して見えていたが、コロナでなかなか難しかった。担当の名前入りポスターを貼った。
- ・相談されたりサポートを依頼された時は支援機関と校区委員会で連絡を取り合って活動する。



グループワークの様子

特集

堺市民生委員児童委員長研修報告

お題②『子ども・子育て・はざまの支援について(課題・取り組み)』

◆現在の取り組み・工夫(子育てサロン、登下校見守り隊など)

- ・子育てサロンを今までは平日でしたが、地域性をみて土曜日に変更したところ、参加者も増えた。秋の地域の行事のお手伝いにもお父さんの協力が増えた。
- ・1度サロンに来られたお母さんは、LINEでつながるようにしている。
- ・認知症キッズサポーター養成講座。地域の歴史を知る資料の整理をしたい。
- ・登下校の見守り。学校との対話が大切。元気をもらう。不

登校については親御さんの話しをきく。

- ・いきいきサロン開催日に不登校のお子さんの保護者の方がお話に来ていただく時間を設けている。
- ・小学校が創立150周年を迎え地域の人と一緒に記念ソングを作る。地域行事で一緒に歌える。
- ・関係機関との連携を密にして、続けることが大事。
- ・子どもの気持ちを大事にして活動したい。なるべく自然に子どもと接するようにして、子ども食堂などで見守っている。

◆子ども・子育て・はざまに関する課題/学校等との連携

- ・不登校の子ども達への支援はどこまですべきか。ヤングゲアラーの実態はどうか。
- ・子育ての母親はSNS等で全般の情報は良く知っているが、地域の情報を望んでいる。
- ・虐待かどうかご近所の困惑を耳にしたので、間違ってもいいから通報してよいと知らせた。
- ・障害のある子どもや不登校の子どもの課題。本人のみを対象とせず、その家族に寄り添った支援となるように活動したい。登下校の見守り活動で気づくことが多い。

- ・子育てサークルの充実。児童虐待に対する対処方法。学校等との情報交換と共有化。
- ・主任児童委員と一緒に小中学校訪問。校長、教頭、生徒指導の先生と問題事例を共有。学校生活、不登校生徒児童がよく分かり、ありがたく思っている。
- ・はざまや不登校について中学校(4小学校区)で対策会議を行っている。
- ・登校時間外に見かける子ども。保育園、幼稚園に行っていない幼児のサポートが大切。

お題③『災害・防災の取り組みについて(課題・取り組み)』

◆地域での防災に関する取り組みと課題

- ・連合自治会の防災委員会と連携して防災活動を行っている。避難所開設訓練に参加している。
- ・防災の取り組みは自治会を中心に安否確認を重点。
- ・地域の防災担当の方の努力で訓練やマップ等、安心安全に暮らせる地域をめざして下さっている。
- ・避難訓練の取組例:各家庭の玄関に地域できめた色のタオルや手拭を結んで確認をしている。
- ・地域で行事する時、小学校の行事の時も防災倉庫など展示がてら開放したりトイレの組み立てをするコーナーを作っ

ている。防災グッズを身近に感じる。

- ・避難所は開設されるが、なかなか避難所へと足が向かない。夜中に警報解除時の問題あり。
- ・障害者、高齢者の名簿を作成している町会もあるが、できていない町会もある。
- ・自治会未加入の住民の数や住まいも分からないことが多いエリアが課題。
- ・地区のコンテナに名簿を保管。BCP(災害時事業継続計画)。

◆災害・防災に関する民生委員の避難行動要支援者・平時の見守り

- ・委員さんに対しても、まず自分の安全を確保してもらおう。
⇒「自助・共助・公助」
- ・各民生委員は台風等の前後に高齢者宅、各地域を見まわり、被害等の確認と声掛けをしている。
- ・まず委員同士の連絡がスムーズに行えるようにLINEグループをつくった。
- ・避難行動リストについて、実際大きな災害などにあっていない状態なので関心のない人が多い。
- ・要援護者については、当初は地域で募っていたが、堺市から調査されたリストが来るので助かっている。知らなかつ

た人の詳細も分かった。なるべく自治会との連携をしたい。

- ・幼児の災害時の対応。地域防災への参加。避難行動要支援者への対応。
- ・個人の緊急避難時の連絡先(第1通報者等)の台帳づくりに取り組んでいます。大切と思われることを記載している。地域の危険と思われる箇所の点検。
- ・要支援の方々二人ずつのサポートを付けている。台風時の声かけ、雨戸閉め、出歩かない。
- ・校区の災害時要援護者名簿と堺市の避難行動要援護者名簿を2年ごとにメンテナンス。

堺市民生委員児童委員長研修報告

特集

お題④『民生委員長として大切にしていること(思い・工夫・継承)』

- ・各委員には仕事、家庭を第一にさせていただく。委員あつての地域。
- ・無理をせず活動できるよう、委員同士の“つながり”も大切に。頼る時は気軽に頼れる仲間作り。
- ・各委員間の情報共有(LINE活用)。各自治会会議へできるだけ出席。
- ・みんな(委員全体)が楽しく活動できるように心がけている。



インタビュー＝榎校区小猿委員長

- ・民生委員活動をして良かったという体験(例えば、喜んでもらえた! 感動した!)をしてもらったり共有したりすることで、委員活動を理解し活動を続けてもらう。
- ・民生委員全員に情報の伝達を洩れなくすること。
- ・新任委員にもわかりやすく何事も説明するようにしている。
- ・定例会では必ず全員に一言発言してもらうようにしている。
- ・誰が委員長になっても前へ進むように道筋をつけたいと思っている。
- ・地域の民生委員同士で、ざっくばらんに情報交換、話ができる機会、雰囲気があればよいと思う。
- ・委員同士では、本音の意見を定例会で話すが、その後は笑顔で語り合える。
- ・一人で抱え込まず、先輩委員にも声かけをするように伝えている。
- ・定例会でケース研究(情報共有)すること。
- ・委員同士のコミュニケーションをとる。忙しい時はお互い様、助け合いながら活動する。
- ・民生委員同士の意思疎通を図ること(情報の共有化!)
- ・1人の力(知恵)ではできないこともみんなで力と

- 心を合わせて前向きに受け止める。
- ・普段の活動から、疑問に思うことや分からないことを出し合い、会として問題解決に取り組む。
- ・校区の民生委員との和。自治会との連携。
- ・困難なケースは一人で抱え込まない。校区民生委員で協力。アットホームな校区定例会。
- ・校区委員の和。地域の悩みを相互に分ち合う。
- ・聞き上手になること。
- ・関係機関との日頃からの関係作り。
- ・信頼関係を大切にしている。
- ・地域に足をつけ、見守り、話し掛けをする。サロンや喫茶でその地域の人達の安否確認をしっかりとする。見守りが一番大切である。
- ・住民のよき相談者。
- ・地域の団体の和も必要である(協力関係)。
- ・民生委員になった時、「やさしい民生委員」になりますと。そして、どなたにも平等で分け隔てなく接するようにしました。
- ・地域との繋がりを大事に。
- ・まだまだ地域には民生委員児童委員がいることを知らない人が多いので、発信していきたい。
- ・地域住民から信頼される、相談のできやすい民生委員児童委員でありたい。
- ・多くの市民に知ってもらう。訪問・見守り活動を継続する。
- ・子どもの幸せを第一に活動したい。委員の連携、諸団体との連携。
- ・民生委員児童委員のなり手不足の解消に努める。
- ・Face to Face。民生委員同士、地域諸団体、地域の方々との絆を密に。
- ・地域の方の情報に常にアンテナを張る。
- ・地域の方から信頼される民生委員に。

閉会挨拶
秋元委員長

北区 我がまち 探訪!

金岡南校区 佐々木 和郎

我がまち北区は、大和川を隔てて北は大阪市、東は松原市に接し、JR阪和線、南海高野線、大阪メトロ御堂筋線の鉄道、また、大阪中央環状線、国道310号線などの幹線道路が整備されています。

主な鉄道駅の周辺では、商業施設や業務施設が集積し、特に中百舌鳥駅周辺では、堺市産業振興センター

(旧じばしん)、さかい新事業創造センター、堺商工会議所などが立地されています。主な企業として

は、ダイキン工業金岡製

作所があり、地域とのつなが

りを大切に納涼祭などのイベントが

開催されています。祭事については、毎年9月に百舌鳥八幡宮「月見祭」が開催されていて、ふとん太鼓が勇壮です。

日本最古の官道であり府内で初めて日本遺産に認定された「竹内街道」、また、世界遺産に登録された百舌鳥古市古墳群を構成する

「いたすけ古墳」など歴史的文化遺産を有しています。また、めずらしいのは、小学校と中学校が一つになった小中一貫校としての「大泉学園」があります。

人口については、堺市人口約82万人に対して、15万8千人で全体の20%を占めていて7区の中で最も多い地区であり、高齢者(65才以上)の人数も多くなっています。

また、北区の児童数も他地区と比較するとここ数年増加傾向にあ

り、校舎の増築がされるなどの対策が講じ

られています。中

には全校児童数

1,000人を超える

学校も数校あり

ます。要因としては、通

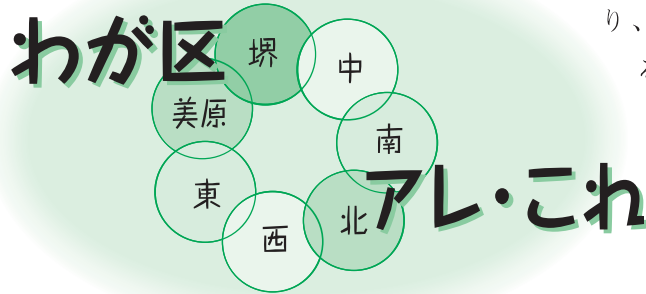
勤通学のアクセスが良いことでマンションなどの建設が増大したことが考えられます。

以上のなかで、北区の民生・児童委員180数名は、お元気ですか訪問、子育て支援などの活動を行っています。

今後40年間で90%の確率で発生すると

いわれている南海トラフ地震に備えることが一番の課題と考えます。より一層のコミュニケーションの充実と連携した対応ができるよう日頃からの活動を積極的に取り組んでいきたいと思っています。

我がまち北区!ガンバ!



日本遺産「竹内街道」
(金岡町付近)

この時季に想うこと

深井校区 北埜 ひとみ

近年の異常気象でしょうか。6月だというのに熱中症が騒がれ、真夏なみの暑さが続いています。やっと梅雨に入ったと思うと、はやばや梅雨明け、その後も二度目の梅雨入りかと思われるような空模様が続いています。

この時季になると、梅干し、らっきょう、梅酒、新しょうがの甘酢漬け、ぬか漬け、味噌作りと、何と忙しいことでしょうか。

今年、私たち夫婦は金婚式を迎えることができました。22才で嫁ぎ、何もできない私を、義母はいろいろと教えてくれました。義母と一緒にらっきょうの皮むきや、味噌の豆つぶしをしたことを、今は走馬灯のようにさまざまな記憶が浮かびます。今は、主人に手伝ってもらい、当時のことを思い出しています。

少しは主婦らしいことができるようになったのも、義母のおかげと改めて「ありがとう」と感謝しています。

現在は、お金を出せば何でも買える時代ですが、我が家の味を少しでも、お嫁さんや娘に伝えられたらと思うこの頃です。

まさかの坂

深阪校区 隅田 美菜子

深阪の地に引越しをして25年になります。子ども2人も成人してからのご近所のおつきあいにも周りの方々のお陰で、私にとって自治会活動を通して深阪が一番住みやすい所となりました。これから歳を重ねていく中で楽しい時、さびしい時、悲しい時には側にいる友だちがいつも寄り添ってくれていることに気がきました。

そんな時、令和4年5月21日に私の不注意で自宅の玄関で転倒。左目を強打し目からの出血で病院に運ばれ、眼球摘出手術を受けました。結果左目失明となり、義眼を入れるようになりましたが、まだ義眼がどういうものかと理解し納得することができませんでした。やさしい主治医との話で右目があることに気付いたのです。当たり前にあることが当然のようにしていた私にとって感謝の気持ちが溢れてきました。そして身体の中から力が湧いてくるのがわかりました。

その後退院して義眼を入れてもらえ、横で見ていた息子から「側で見てるとすこしも違和感ないで」と耳元で言ってもらえたささやきに、また先に光が見えてきました。

それまでは退院したら眼帯をしようとかサングラスをしたらとばかり思案していましたが、自然が一番と思えるようになりました。

今まではどこへ行くのも車に乗っていました。ちょう

ど7月誕生日に免許の更新も済ませましたが、堺市の「お出かけ応援カード」のお陰で乗合いタクシー、コミュニティバスを利用させていただき、病院、区役所、郵便局と便利に使わせてもらっています。なくなったことを悔やむより自分の足で行ける手段を考えながら前進するようになりました。

今まで活動を2カ月間お休みしていましたが、お陰様で7月から復帰させていただくことになりました。あと何年お手伝いできるかわかりませんが、邪魔にならないよう務めます。

皆さま“まさかの坂”にお気を付けてくださいね!!



御霊よ安らかに

R 4. 7. 23 没 東三国丘校区 久高 進様

R 4. 8. 13 没 久世校区 東尾 公弘様

R 4. 8. 26 没 新金岡東校区 兼氏 俊夫様



堺市権利擁護 サポートセンターって どんなところ？

堺市社会福祉協議会 生活支援課
権利擁護サポートセンター係
黒川 智史



私が所属している権利擁護サポートセンターについてお話しします。

堺市社協に就職して7年目になり、この間堺市権利擁護サポートセンター（以下、センター）で勤務しています。センターでは、地域包括支援センター・障害者基幹相談支援センターなどと連携して、判断能力が十分でない高齢者や障害者の相談対応に当たったり、市民からの成年後見制度の利用相談や制度の広報啓発を行ったりしています。

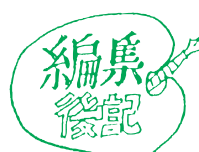
また、センターでは市民後見人の養成と活動支援を行っています。市民後見人とは、市民の立場で活動する成年後見人で、ボランティア活動のひとつです。センターが実施する養成講座を受講後、適合する案件があれば家庭裁判所から成年後見人として選任され、専門職やセンターの活動支援を受けながら、本人に寄り添ったきめ細やかな活動をしていただいています。民生委員児童委員の方や、お勤めの方、これまで福祉分野に携わったことがない方などに幅広くご活躍いただいています。

趣味はサイクリングで、10年くらいロードバイクに乗っています。通勤のほか、たまにサイクリングイベントに出ています。昨年くらいからはキャン

プも始めました。外に出かけるのが好きなのですが、体を動かして汗をかいても何故か体重が減りません。美味しい物を“少し”食べたりするだけなのですが……



愛車と金剛山にて



「石の上にも三年」という格言、教訓があります。つらくても我慢強く耐えていれば、いつかは必ず成し遂げられる。

コロナ禍も3年、ウィズコロナの生活様式（マスク着用・手洗い・手指消毒・検温・3密回避行動等々）が定着し、ワクチン接種も進展しています。

令和4年度になると、オミクロン株による第7波の到来で、欧州に負けられないような感染者数が報道されていますが、緊急事態宣言やまん延防止措置が発出されず感染防止対策を講じた状態で、さまざまな年中行事が再開されています。

そのようななかで、特筆すべきは、高校野球では、「白河の関」を優勝旗が越えないといわれていましたが、第104回全国高校野球選手権大会で、仙台育英が優勝旗を手にし、東北の100年越しの悲願を達成しました。

表紙写真のくら寿司スタジアム堺（原池公園野球場）では、元オリックスバファローズ小川博文講師によるベースボールスクールが開催されています。将来のプロ野球選手が輩出されることを期待します。

民生委員児童委員長研修を特集しておりますが、来期に向けての民生・児童委員活動を企画しています。先輩たちが築いてくれた活動実績をもとに今後も時代の波に押しつぶされることなく、より良い成果をあげていければと思っています。

（石橋 忠泰）